イベント報告

賑わう青森のオリエンテーリング

村越 真

青い森 Apple 2days　2013 年 10 月 26-27 日 青森県青森市

りんご、だけでない青森の魅力を堪能！多くの有力選手を集めたミドルは、松澤俊行と宮川早穂が制する。

2013 年 10 月 26-27 日 青森県青森市
青い森 Apple 2days

三内丸山遺跡がスプリントの舞台。参加者は復元された縄文式住居を縫って疾走する。

200 人を超す参加者で賑わう

二日目のミドルをフィニッシュした参加者全員にリンゴ1個が手渡される。そう、大会名に違わず名産のリンゴが本大会の完走賞なのだ。

東京からも多くの参加者を得た本大会の魅力はリンゴだけではない。初日スプリントは三内丸山遺跡の資料館が会場でコースの半分は世界遺産級の同遺跡を走る。二日目はナヴィゲーションの楽しめる森でのミドル。東北学連の選考レースにも指定され、200 人を越える参加者で賑わったこの大会は、オリエンテーリング人口の少ない地域でのイベント成功の一つのモデルケースとなる画期的な大会だった。

完走賞のりんごを手にして喜ぶ
M21A 優勝の松澤俊行選手

世界遺産級の遺跡でスプリント

東京ドーム 7 個分にも及ぶ敷地を持つ三内丸山遺跡の本格的な発掘は 1990 年代の中頃に始められ、多くの発見がもたらされた。高さ 10m を超す掘っ立て構造の櫓や長さ 20m を超す大規模な建物の跡、資料館で見ることができる漆器や芸術品のような釣り針や石器、いずれも、縄文時代に対する旧来の認識を覆すものであった。そんな世界遺産級の場所を舞台にオリエンテーリングをすることができるのだ。

会場も、同遺跡の資料館の一角の会議室。聞くところによると借りるにあたってはかなりの苦労があったという。公園で走るだけでも問題になる昨今だ。青森という土地柄が幸いしたのかもしれない。

スタートは、遺跡の南に隣接する運動場の傍らにあり、コースの半分は運動場を巡る。その後アンダーパスで三内丸山遺跡に入る。有名な巨大櫓や長さ 20m を越える建物跡など、本遺跡の看板的復元建物を巡りながらフィニッシュする。広々した遺跡の敷地内でのコースはやや単調な感は否めないが、復元された建物の間を走り回っていると、獲物を追って走り回っていた縄文人気分になる。

この日の優勝は堀田遼と高橋美誉。高橋は 2 位宮川早穂を 1 分 10 秒上回る圧勝だ。堀田と 2 位藤原（岩手大）の差も 23 秒だから、男子のスプリントとしては大差といってよいだろう。

スプリント女子の優勝者となった
岩手大学の高橋美誉

ミドル：北国の里山を堪能

翌 27 日は、三内丸山遺跡の南方約 5km でミドル種目のレースが行われた。このテレインは 1997 年に北海道・東北選手権が開催されて以来温存されてきたテレインで、道は少なく、林の中の通行可能度もまずまずだ。ファインなナヴィゲーションが楽しめる。

前日夜からの雨も概ね上がり、やや肌寒い中、スタートが始まった。北東学連のインカレミドルの選考会を兼ねているため、福島以北の多くの学生が参加し、男子 M21 の出走数は 120 を越え、スタートは 9:30 より 11:30 すぎまで続いた。

南は福島大から岩手まで、多くの東北地方の学生が集まった。

前半早いうちに、東北大学の宮西祐太郎が 42 分台を出した後、やはり東北の菅野が 38 分台を出し、東北選手権を獲得した。レース全体では東北大出身の松澤俊行が 37 分台のタイムで優勝、2 位堀田遼、3 位村越真という結果であった。

女子は、本命の高橋美誉（岩手大）が男子クラスに出場したこともあり、東北選手権は松田沙也香の手に渡った。レース全体の上位は 1 位が宮川早穂、2 位渡辺円香、3 位花木睦、だった。

東北選手権を制した松田（左）と菅野（右）

前日の失敗を教訓に

ミドル M21A 優勝コメント　松澤俊行

予想通り、上位争いは接戦でした。予想についてより詳しく言えば、自分が勝つ場合は、混戦を抜け出して僅差で優勝、と想像していましたが、一方では、選考会という状況によってモチベーションが高まっている学生の勢いに及ばず完敗、という想像もしていました。

前日のスプリントでは、コントロールを一つ飛ばして失格でした。でも、落胆は小さく、「最近高速スプリントをこなす回数が減っており、そのため勘が鈍っている」と冷静な分析をしていました。コントロール位置が易しいスプリントとはいえ、プランやアタックで手抜きはできません。また、追い込めば追い込むだけ思考力は削がれていきます。そんな当たり前のことを思い出しながら、「翌日のミドルは一層アタックが重要になる。アタックでの集中と綿密な手続きは、レースの間中、たとえ体がきつい局面が訪れても貫くべき」と言い聞かせて、翌日に向けて気持ちを整えました。

同じ大学の後輩など、学生が大勢走るとあって、また、村越真さんと久しぶりに同じコースで競う機会とあって、気も引き締まりました。そうした程好い緊張感も手伝って、良い精神状態で出走できたと思います。大きなミスをする選手もいる中、うまくまとめて走って得た今回の優勝には、格別の充実感と達成感がありました。

聞いた話では、来年も同じ時期に同じような大会が開かれるようです。全日本ミドル直前に自己把握をする上でありがたい機会ですので、また出場できれば、と考えています。

（松澤俊行）

地方でのオリエンテーリング大会成功のモデルケースとして

首都圏近郊の大会ですら 400 人を越える参加者を集めることは珍しくなった。その中で東京から 700km 近く離れた青森で 200 人以上の参加は快挙といってもよい。今回、この大会が多くの参加者を集めたのにはいくつかの理由があろう。

北東学連の選考会として多くの学生を集めたことは、その中核に位置する。

来年度、日本学生オリエンテーリング連盟は正式に JOA に加盟することになる。これまでにももちろん学生と社会人クラブの協力関係は特に地方で見られたが、正式な組織関係ができることで、学生のパワーをうまく引きつけて大会を行うことは、地方に限らず大会を活性化させる大きな要素となるだろう。

三内丸山遺跡という世界クラスの観光地での開催は大きい。かくいう筆者も、この遺跡で走れることを知って参加を決めた口である。通常の都市公園ですらスプリント大会の開催が難しくなっている昨今、世界遺産に登録されても不思議はないこの遺跡で大会が開催できたのは奇跡といってもよい。参加者にとっては願ってもないロケーションだが、その背後には運営者の地道な渉外活動が偲ばれる。

アクセスのよさも大きい。東京からは早めに予約すれば比較的安価に航空券が確保できる。空港や高速の IC からも至近。新幹線の新青森駅から歩いて来られる。しかも初日はスプリントのため、静岡ですら朝出ても十分間に合う。アクセスの良さが幸いして、関東圏からも学生からシニア層に至るまで多くの参加者があった。

来年の準備はもう始まった 本誌松澤、田中氏に聞く

田中徹氏（京葉OLクラブ）にお話を伺った。田中氏は、昨年度中は仕事の関係で青森県内の八戸市に在住しており、今大会の計画と準備に関わった。もちろん、地図調査も田中氏と幸山氏の２名で進めた。

～大会の準備と当日の運営、お疲れ様でした。田中さんにはまず地図のことをお聞きしたいのですが、調査には何日間入られたのでしょうか？

二人でだいたい延べ30日ほど入りました。でも、別の用事もこなすために半日で切り上げた日もあるので、正味25日ほどといったところでしょうか。春に関東に引っ越してからも、5月に3回、6月と9月に一回ずつ入っています。ちなみに、今回はGPSを使っていません。

～参加者からの地図の評判は聞きましたか？

自分でも納得行く仕上がりでしたし、評判も悪くありませんでした。本人を前にして悪評を口にしない方もいるのかもしれませんが…（笑）。

～大会全般の評判はいかがでしたか？

上々でした。関東から来た方に、「青森は近い」という感想を持っていただけたことも、来年以降を考えると収穫だったと思います。

～次につながりますね。「次」はいつになるのでしょうか？

来年の開催計画も現実的に進み始めています。テレインの候補地は既に２ヶ所あり、いずれも交通の便の良い場所です。地方でもこれぐらいの大会を継続的に開く力があることは強くアピールしたいですね。

～大会開催には、人材の確保が重要です。今回は何人で準備を進めたのでしょうか？

隣の秋田県、岩手県の協力もいただきながら、実質10人前後で進めています。ミドルの日は、その他にオリエンテーリング協会関係者でない地元の方々にも助けていただきました。

スタートの近くにホタルの保護区があり、地元の地区長に挨拶に行ったところ、快く迎えていただき、駐車場整理の人手と、賞品の提供をいただけることとなりました。地区内にホタテの加工場があったため、干したホタテを上位者にプレゼントしています。その他、フィニッシュ近くで、餅や汁物も振舞っていただけました。

～当日は少し冷えたこともあり、汁物は多くの参加者がありがたがっていました。フィニッシュ後にリンゴ一個丸々もらえたのも、「さすが青森」と好評でした。

リンゴは昨年、秋田県開催の北海道東北選手権大会でもすでに大会のプロモーションとして配っていて、その時から大会名にリンゴを入れる構想がありました。今後もリンゴのサービスを売りにして大会を続け、評判が定着していくよう望んでいます。

～北海道東北学連（北東学連）が、今大会をインカレミドルの選考会に指定していました。そのため、学生の参加が多く、賑やかな印象がありました。

北東学連にはお世話になりました。先ほども言いましたが、青森としては来年以降も同じクオリティでの大会開催を計画していますので、是非今後もご利用いただきたいと思います。今回の運営面で主役級の活躍をされ、地図調査も担当された幸山敏克さんが、今頃（＊）来年のテレインの下見に行っているはずです。

＊このインタビューは大会一週間後の11月４日に実施している。

～大会翌週に来年の下見、それは機敏ですね。

青森はこれから雪の季節ですから、今行くしかない、というのもありますけどね。年によっては、11月頭に降雪に見舞われる場合もあります。そうしたことを考慮すると、大会は10月末開催がギリギリのタイミングです。

でも、幸山さんをはじめ、関係者が「北東学連の学生が毎年、北東の地元エリアで選考会ができるように」と大いに意気込んでいるのは確かです。北東学連の皆さんも、その他のオリエンティアの皆さんも、来年以降の「青い森 Apple 大会」に、是非ご期待ください。

～もちろん期待しています。貴重なお話をありがとうございました。

ミドルでスタートを担当する田中徹氏

オリエンテーリングの楽しみを深める研修会

なお、スプリントは、ナショナルチームのヘッドコーチであった吉田勉氏によって、会場での基礎技術のワンポイント実技講習（主催：JOA）や夜の研修会が青森の中心部で開催された。北東学連の選考会が開催され、多くの学生が参加する中で、参加大学が岩手大のみだったのは残念だったが、社会人も含めて15名の参加があった。

地図の持ち方、歩測やコンパスワークを確実に使いこなすこと、先読みという言葉の明確な使い方とその実践、等、曖昧にしがちな基礎技術についての解説や、スプリント／ミドル／ロングという種目特性の競技規則上の特徴など、基礎的な話しがみっちりなされた。

ある程度オリエンテーリングができるようになると、こうした基礎は分かっているものとして、おろそかにしがちだが、それらを確実に身につけることで、ヨーロッパも含めたどんなテレインでも対応できる応用力も高めることができる。スポーツの世界では当たり前だが、オリエンテーリングではこれまであまり注目されてこなかったところに焦点をあてた研修会は新鮮だった。

関東から参加者した元ナショナルチームコーチ吉田氏による基礎実技講習会。短い時間だったが20名近い学生社会人が集まり、地図の持ち方、持ち替え方を練習した。

（村越 真）